

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191400308		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム グース		
所在地	北海道函館市花園町24-3		
自己評価作成日	平成27年2月1日	評価結果市町村受理日	平成27年3月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigrosyoCd=0191400308-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年2月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の思いを尊重し、日々の生活を穏やかに過ごして頂ける様スタッフ一同活発に意見を出し合い、相談し実現に取り組んでいます。年間を通し四季折々の行事を楽しんで頂いたり、健康維持の為のリハビリ体操・嚥下体操を行っている。食事に関しては、当グループホームの関連会社が配食産業の会社であり、ご高齢の方に最適な食生活を提供する事を責務としている。また全道各地に同グループの事業所があり、連携を取っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ふれあいの里 グループホーム グース」は、近くに市営住宅や保育園、コンビニなどがある大きな通りに面した住宅地に立地している。居間と食堂が独立した明るく開放感のある造りで、居室の近くにあるトイレはプライバシーに配慮して廊下から少し奥まった場所に入出口を設置している。玄関や居間、廊下には季節感のある飾りや手作りの小物類を品良く飾り、居室もそれぞれの利用者の好みに配慮した室内づくりを行うなど家庭的な温もりが随所に感じられる事業所である。管理者が理念の唱和を職員に不定期に促したり、地域行事に参加する機会に再確認することで職員の理念に対する理解も深められている。また、管理者は日頃から職員の意見や提案に耳を傾けて働きやすい職場環境づくりを行うと共に、計画的に勉強会を行いながら職員の資質向上を目指して常に向上心を持って運営やケアに取り組んでいる。地域の演劇一座の観劇に出かけたりお祭りに参加するなど、地域交流も積極的に進めている。保育園との交流も継続して行われている。毎月家族に郵送している、利用者の日常生活や健康状況などを詳細に記入した手書きの手紙は家族の喜びのひとつとなっている。管理者と職員は一人ひとりの利用者向き合い、残存能力を活かしながら排泄面や歩行の自立に向けて積極的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(1Fアウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着 型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「敬愛」を重視し、理念をと統一することでサービス向上に努めている。	地域の方達との交流を通し、日常的に安心できる生活を提供するという地域密着型サービスを意識した文言を基本理念に掲げ、事業所の要所に掲示している。管理者は、不定期で各職員に理念を確認しながら全職員で共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会行事への参加や、近隣の保育園の園児訪問等の交流がある。	七夕や保育園の学芸会の後などに園児が来訪して、歌や踊りを披露している。地域の夏祭りには職員がやぐらの設置を手伝い、夜の盆踊りにも利用者が参加して楽しんでいる。地域の「花園一座」の観劇にも出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の方々に回覧板を通じ、避難訓練にも参加していただき、運営推進会議の中で話合っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議の中で、行政担当者や地域包括支援センター職員、ご家族や町内会の方々と、ホーム内での現状や今後の取り組みについて話し合っている。	全家族に会議案内を送付して、事業所や町内会、地域包括支援センターからの報告や情報提供などを行っている。8名程の家族が参加することもあるが、だんだん参加が少なくなっている。議事録は全家族に送付している。	毎回テーマを記載した会議案内を全家族に送付して事前に意見を聞き取るなど、参加できない家族の意見も会議に活かされるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市や保健所で行われている研修・講習に積極的に参加し、職員と共に話し合い、ケアに取り組んでいる。	管理者は、市役所の生活保護課を訪問して利用者の相談をしたり、介護認定の更新手続きや自立支援の手続きなどを行っている。市役所の担当者が交代した時は、事業所の実情なども新たに伝えて協力関係が継続できるように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束についてはスタッフは理解しており、やむを得ない場合には、ご家族に連絡し同意をいただいている。	「禁止の対象となる具体的な行為」を記載した、法人マニュアルを整備している。カンファレンスなどで具体的な事例に沿って検討して、拘束のない対応を行っている。今年度は、12月に事例に沿った勉強会を実施している。今後も、具体的禁止行為について更に学びを深めて行く意向である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部・内部の研修に積極的に参加し、職員間で正しく認識し、注意を払い防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な方には自立支援の手続きをご家族と連携をとり行い、成年後見制度については利用されている入居者様があり、後見人の方と連携をとり支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には必ず文書で説明を行い、内容を十分に理解・納得していただけるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設置している。ご家族の来所時や入居者様との日々の会話から意見や要望を表せる機会を作り、サービスに反映させている。	来訪時などに意見や要望を聴き取り、申し送りノートに記載したり口頭で職員に伝えている。毎月、本人の日常生活や健康状況などを記入した手書きの便りを家族に送付している。今後は、家族の些細な意見なども個別に記録して行く意向である。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議等を通じ、スタッフが意見や提案を反映されるようにしている。	管理者は、日頃から職員の意見や提案に耳を傾け、その都度職員と共に検討しながら業務の改善などを行っている。会議前には、参加できない職員から意見や提案などを聴き取っている。管理者は、年2回各職員と個別面談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績を認め、皆が研修や勉強会等も参加できるように調整し、やりがいの持てる職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々として、またチームとして知識や技能、仕事をする価値を身につけることが出来るよう、ホーム内での勉強会や外部の研修に積極的に参加できるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南北海道グループホーム協議会やブロック毎の会議、勉強会等に参加し意見を出し合い交流を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前よりご本人の思いや生活習慣、疾病を把握し、環境変化への不安を取り除くことに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が困っていること、不安なこと等小さなことでも話し合える信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族が今求めている支援を見極め対応し、必要であれば他のサービスにも繋げていけるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	尊敬の気持ちを忘れず、入居者様の生活リズムに合わせ、ご自宅にいる気分になり、家族と思えるような関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様や御家族さまの気持ちを尊重しながら、共に支え合える関係を築くように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様が大切にしている方や場所、親交のあった方と連絡がとれるよう努め、外出の際はご家族さまやスタッフと一緒に希望の場所に行けるよう取り組んでいる。	同級生や昔からの友人などが来訪した時は、居間や居室でゆっくり過ごしてもらうように配慮している。家族と一緒に美容室や外食、ドライブに出かけている。職員と一緒に、近隣のコンビニに買い物に出かけることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	可能な限り、入居者様全員が参加できる様なレクリエーションや行事をし、関わり合える場ができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も郵便物等が届いている場合には連絡を入れ、必要に応じ郵便物の転送や御様子を伺う事を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の関わり合いから、ご本人の思いや意向を伺い、希望に添える生活を送れるよう配慮している。	日頃の会話や顔色、目の表情、いつもと違う感じなどから思いや意向を把握している。年1回アセスメント表を更新して、本人の変化や情報を蓄積している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の馴染みの家具・小物等を生活歴に添って配置し、装飾等に配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で変化が起きた場合は、スタッフ間にて情報共有し把握できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族と話し合い、日々の情報交換やカンファレンスにて話し合いながら、その人その人に合った介護計画を作成している。	利用者担当職員が行ったモニタリングを基に、計画作成担当者を中心に全職員で3か月毎に検討して介護計画の見直しを行っている。短期目標の具体的な項目に沿って、変化や課題などを記入して更に介護記録を充実させたいと考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子や変化等を記録・申し送り、スタッフ全員が情報の共有をしている。必要に応じ介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同一法人内での研修会等で意見交換を行い、通院支援や買い物代行等柔軟な対応ができるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催し物への参加や、近隣保育園児の訪問など交流を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様・ご家族様が希望されるかかりつけ医に、定期的に受診・往診を受けれる様支援を行っている。	利用開始前からのかかりつけ医を継続して、往診を受けている利用者もいる。家族と受診する時は、日頃の健康状態を書面で主治医に伝えている。利用者の医療情報は往診と受診に分けて、全利用者一緒に記載している。	各利用者の医療情報が分かりやすくなるように、個別に往診と受診の記録を整理するよう期待したい。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は配置されていないが、週1回の健康管理指導にて看護師と連携をとり情報共有し、常時相談可能な協力病院と医療連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時にはご家族に早急に報告を行い、病院関係者への情報提供を行い、関係作りにも努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に重度化、終末期に関しご本人様・ご家族の意向を確認し、十分な説明を行いながら方針を共有し、病院関係者等と情報交換を行っている。	「重度化した場合の対応に係る指針」を作成して、経口摂取や常時医療行為が必要になった時は対応が難しくなる旨を利用開始時に説明している。体調変化に応じて主治医と家族、事業所間で対応を検討して方針を共有して行く意向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備え、スタッフ全員が救命の講習を受け応急手当・初期対応の知識を深めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行っている。日中だけでなく夜間も想定した訓練を行っている。スタッフルームに避難所マップを掲示している。	運営推進会議に合わせて、消防署の協力の下に火災避難訓練を行っている。会議の参加者も見学で参加しているが、地域との協力体制の構築と災害備蓄品の整備は今後の課題となっている。職員の救急救命訓練は計画的に進める意向である。	地域との協力体制を整えると共に、備蓄品の整備を進めるよう期待したい。また、地震時などのケア別の対応について、職員間で確認するよう期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳や気持ちを大切にし、一人ひとりの言葉掛けに工夫し対応している。	名前を「さん」付けで呼びかけ、親しみを込めながら丁寧に対応している。個人ファイルを籠に入れて持ち運んでいるが、個人名が特定されないように目隠しなどの工夫も考えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の思いを常に考え、その上で自己決定が行えるよう支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様のペースを大切にし、その都度入居者様の声に耳を傾け、希望に添った支援を実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の希望に添える様、身だしなみやおしゃれに対する支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の個々の嗜好や食べやすさなどを考え、食事提供をしている。またスタッフと一緒に調理の準備や片付けを会話を楽しみながら行えるよう取り組んでいる。	本部からの献立を見て調理法を変更する事もある。誕生日や行事には献立を中止して、好みに「いなり寿司」や「ちらし寿司」、バイキングなども取り入れている。畑の収穫物で「さつまいも」をふかしたり、新鮮な野菜類を食卓に添えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取量を把握し、嗜好に添った物や食事形態を変え、声掛け・促し等の工夫を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後促しにて口腔ケアを行っている。ご本人が行えない場合や不十分な場合は、スタッフが支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、布パンツにて可能な方は声掛け・誘導を行っている。オムツ使用の方にも自尊心に配慮し声掛け・誘導を行い、ご自身で行えることは行ってもらい排泄の支援をしている。	全員の排泄状態を記録して、活動の区切りや個々に沿って声かけやトイレに誘導している。歩行訓練のついでにトイレに誘うなど、排泄の羞恥心に配慮している。布パンツへの移行やパットの種類を検討し自立に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳等の水分補給や野菜を多く摂取していただくよう促し、体操や歩行の運動を一緒にやり予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前に声掛けし、希望に添った入浴支援を行っている。入浴の際にはリラックスしていただける雰囲気を作り努めている。	午後の時間帯に週2～3回の入浴を支援し、嫌がる方には職員の交代や声かけの工夫で入浴につなげている。拒否が強い時は足浴や清拭で対応している。入浴中は入浴剤の色や香りを楽しみ、歌を唄ったり会話をしてゆっくり入っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の希望や状態に応じて日中休まれたり、夜間眠れない方はスタッフが付添い、安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の薬の作用や副作用、用法・用量を把握し、症状や薬が変更した場合は、様子観察し報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌をうたったりボール遊びなど、入居者様とスタッフが共に楽しめるよう取り組んでいる。洗濯物をたたむ・食器拭き等、一人ひとりの生活能力に応じ過ごしていただけるよう支援している。		

ふれあいの里 グループホーム グース

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望を確認し、ご家族の方やスタッフと外出できるよう支援している。また年に数回外出行事を実施している。	近所の花壇を眺めて散歩したり、近くのコンビニで買い物を楽しんでいる。玄関先で日光浴も行っている。町内会の行事、桜並木での花見、アイスクリームを食べに行くなど、交代で外出している。冬季には受診などで外気に触れている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の金銭管理能力に応じ支援している。買い物等は可能な限り、スタッフ見守りにて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけられる方はいないが、手紙についてはご家族に送らる方がおり自由に制限なく支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日こまめに共有部分を掃除し、ノロウイルス等の対策も含め、居心地よく過ごしていただけるよう支援している。	居間は畳敷きのスペース、食卓テーブル、ソファを各コーナーに配置しており、広々している。廊下から奥まった場所に3か所のトイレがあり、プライバシーに配慮した造りになっている。雛壇の飾りや利用者の作品、また行事などの写真を月ごとに替えて掲示し、暮らしが分かるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに座り会話を楽しんでもいただけるよう配慮し、テーブル席では不快のないよう席を工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望により位牌などを置かれている方や、家族写真を飾る方への支援等も行っている。馴染みの物を使用し好みの色など考え楽しく過ごして頂けるよう支援している。	居室に作り付けのクローゼットの他、馴染みの家具類や仏壇などが持ち込まれている。窓辺のコーナーをそれぞれに活用している。好きなアニメのグッズ類、誕生日カード、作品、写真などを飾り、居心地よい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子や歩行器等の補助具の使用にて、自立し安全を確保できるよう工夫している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191400308		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム グース		
所在地	北海道函館市花園町24-3		
自己評価作成日	平成27年2月1日	評価結果市町村受理日	平成27年3月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigyosyoCd=0191400308-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年2月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「1F ユニット」に同じ

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(2Fアウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者、職員同士で事業所として理念を統一することで、サービス向上に努めている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会で行われている演劇や食事会、盆踊りに参加している。また近隣保育園の園児訪問等の交流も行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じ、町内会役員の方に避難訓練に参加していただき、非常時の体制を確認している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎月2回、スタッフ間でカンファレンスを行い、ホーム内での現状・今後の取り組み、研修内容の報告等について話し合いをしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市や保健所で行われている研修等に積極的に参加し、研修内容を職員全員で共有しケアに取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束についてのマニュアルを職員は理解しており、やむを得ない場合はご家族と必ず連携し理解した上で同意をいただいている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についてスタッフ間で正しく認識し注意を払い防止に努めている。虐待についての外部・内部の研修にスタッフがに参加し学んでいる。		

ふれあいの里 グループホーム グース

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている入居者様があり、後見人と連携し支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には必ず文書で説明を行い、内容を十分に理解・納得していただけるよう努め、ご本人・ご家族の理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に説明ある通り苦情相談窓口を設置しており、契約書にも明記している。また玄関に意見箱を設置している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議等を通じスタッフが意見を話しやすい環境作りを心がけ、意見や希望が反映されるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況、意欲的な事を考慮しながら職員が評価できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内での勉強会や外部の研修に参加できる様に配慮し、職員が学べるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南北海道グループホーム協議会やブロック毎の会議、勉強会等に参加し意見を出し合い交流を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始時にご本人様の話を傾聴し、その内容を受け止め、安心して頂ける関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思い・要望などを来訪時に話し合える関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	優先すべき支援を的確に判断し対応する。その後のサービスに繋げ、良いサービス支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬し、共に生活し生きていくという考えのもと支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の希望・要望に添えるように努め、ご本人にとってより良い生活になる様、共に支え合っていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の御友人・親戚など交流のあった方々との関係を大切にし、来訪時はご本人様に伝え、居室・フロアでゆっくりと楽しい時間を過ごしていただけるよう配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション・行事や日々のお手伝い等を通じて、入居者様同時が交流できる様支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者様や御家族との付き合いを大切にし、相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の関わりの中から、ご本人の希望や意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の生活歴の把握と馴染みの家具や小物等を置いていただき、サービス利用の経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態観察からできること、できないことの把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の状態観察やカンファレンス等にて課題やケア方法を話し合い、ご本人様・ご家族の意向を大切にその人にあった介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子や変化など個別に記録し、必要に応じ介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同一法人内でのグループホーム間で意見交換などを行い、通院支援や買い物代行、訪問理美容の利用等の支援を行っている。また協力医療機関の往診の支援も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方の協力によるホーム内の行事や地域の催し物への参加、近隣保育園児の訪問など交流を継続して行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様・ご家族の希望を尊重し、納得が得られた適切な医療が受けられよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は配置されていないが、週1回の健康管理指導を通じ協力病院看護師と相談が可能な体制をとっている。またご本人・ご家族の希望による往診や定期受診の際に相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常に医療関係者と情報共有に努め、入院された場合にも早期退院出来るよう、医療関係者との関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様・ご家族の意向を確認した上で、病院関係者や地域の関係者とチームを組み、重度化に対する情報共有を行いチームとなり支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に対応できるようマニュアルを作成し、防火訓練や救命の講習を受けスタッフで知識を深めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行っている。運営推進会議を通じ地域の方も避難訓練に参加されており、日中だけでなく夜間も想定した訓練を行っている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりの尊厳や気持ちを大切にし、スタッフ間で常に言葉掛けには十分注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どんな時でもご本人の思いを第一に考え希望に添えるよう心掛けている。その上で分かりやすく説明し自己決定が行えるよう支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室にて過ごされる方やフロアにて歌や塗り絵をされる方もおり、お手伝いや運動等ご本人の希望や体調により行われるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容・美容はご本人・ご家族の希望により出張サービスを利用される方が殆どである。ご本人の希望を聞き、季節感を取り入れた身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		

ふれあいの里 グループホーム グース

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の個々の好みを把握し食事の提供をしている。又調理の準備や片付けをスタッフと一緒に楽しみながら行えるよう取り組んでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った摂取量を把握し、食事形態に合わせ工夫し提供している。水分摂取が困難な方には、好みの飲み物やゼリー等で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っており、夕食後には義歯を洗浄剤につけ消毒している。ご本人様の行えない場合や不十分な場合はスタッフが支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の訴えの無い方や排泄間隔が長い方は、自尊心に配慮した支援を行い、トイレ誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士のメニューにより野菜を多く取り入れている。牛乳等の水分補給を促したり、体操や歩行にて運動への働きかけを行い、予防に取り組んでいる。また個々の排便パターンを把握し、便秘時には主治医より処方された薬を服用していただいている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望やタイミングに合わせて楽しく入浴できるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを大切に希望に添った対応にて、安心して休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員が服薬介助に責任をもち、服薬内容の変化の際には内容確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人が希望する家事の役割等を積極的に行えるよう支援している。またゲームや体操を取り入れ、入居者様が楽しんでいただけるよう支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事のみではなく、暖かい季節にはスタッフと共に近くのコンビニエンスストアまで行かれたり、散歩をしたりしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の管理能力に応じ少額のお小遣いを所持して頂いている、買い物時は付添い可能な限り見守りにて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望に応じスタッフが代理で電話をしたり、自ら手紙を書ける様支援している。手紙はご本人に手渡し確認していただいている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎にフロア内の装飾を工夫している。共用の空間には季節毎の装飾や、お花見・誕生会等でのスナップ写真を飾っている。必要に応じ遮光、室温調整、換気等行い、快適に過ごして頂けるよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル席、タタミコーナーもあり、個人で自由に利用できるよう支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の好みの物や使い慣れた物を使用していただいている。。ご家族と協力し、家族写真や好みの物を置き環境作りをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで手すりも設置している。生活の中で入居者がスタッフとともにお手伝い等をしていただき、できることをサポートしている。		

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里 グループホームグース

作成日：平成 27年 3月 9日

市町村受理日：平成 27年 3月 12日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	毎回テーマを記載した会議案内を全家族に送付し、事前に意見等を聞き入れ、参加できない家族の意見も会議に活かされるようにする。	テーマを記載した会議案内を全家族に送付して事前に意見を聞き入れるなど、参加できない家族の意見も会議に活かされる。	今回の運営推進会議にてご家族に意見等を聞き、次回の運営推進会議では「ケアサービスの種類を確認する」というテーマにて地域包括の職員の方々に協力いただき開催する予定。今後もテーマを決めて開催案内を行い開催していく。	2か月
2	30	各利用者の医療情報が分かりやすくなるように、個別に往診と受診の記録を整理するように期待したい。	医療情報が分かりやすくなるよう、個別に往診と受診の記録を整理する	医療情報、ご家族の言葉等をファイルに個別化し、職員も記録しやすく、時系列で確認できるよう作成した。	1週間
3	35	地域との協力体制を整えると共に、備蓄品の整備を進めるように期待したい。また、地震時などのケア別の対応について、職員間で確認するよう期待したい。	備蓄品の整備を進める。また、地震時などのケア別の対応について、職員間で確認する。	備蓄は昨年より本社と話を進めている状況。早急に準備が出来るよう検討中。 ケア別の対応については今後会議等通じ、災害時等も対応できるよう全職員と話し合い、把握できるよう確認を行う。	1ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。